

The background features a series of thin, light blue lines that curve and flow across the page, creating a sense of movement and depth. The lines are more densely packed in some areas, creating a subtle gradient of blue.

# H class

創作表現

「フレデリックからの  
大切な贈り物」

指導担当 橋本 真理子

## Hクラス 創作表現



### 1. 私たちが大切にしていたこと

フレデリックは、初めはみんなと違う行動をして何もしていないと思われていた。しかし、冬になり食べ物もなくなりみんなの元気がなくなった時に、今まで集めてきたものを教えてくれた。それは、光や色、言葉だった。行っている行動はみんなと違ったが、“もの”と同じくらい大切なことを得ていた。このことから、一人ひとり違うのは当たり前でそれぞれに役割があるのだということを伝えたかった。

### 2. テーマ（絵本：フレデリックからの大切な贈り物）を選んだ理由

私たちのクラスは内向的な性格の人が多く、フレデリックの雰囲気似ていたため、絵本の世界観をより引き出せると思ったからだ。また、絵本の色合いが独特で自分たちで表現できると面白いのではないかと思ったからだ。

### 3. 取り組んだ課題について

- ・学内にある自然物（葉、木、ススキ、花、石）を使い絵本を制作した。
- ・絵本やダンスに合う音楽を見つけた。
- ・ダンスを全員で考えた。
- ・小道具（とうもろこし、藁、クッキー、石）を作った。
- ・読み手や音楽に合わせたねずみの動きの工夫と練習に力を入れた。
- ・雪を降らせるなどの演出にこだわった。
- ・今までの制作過程がわかるようなエンドロールを作った。

#### 4. 取り組みの実際

担当した役割

<ナレーション>	北原沙彩
<フレデリック>	塩塚里奈
<のねずみ>	一村優華・井手佑香・諸富千聖・豆田咲
<フレデリックの声>	森美優
<のねずみの声>	塚本萌杏・布谷満里奈・野口みやび・松岡美里
<黒子のねずみ>	井上奈々・井上遥香・嶋田香凜・塚本萌杏・徳永南奈 布谷満里奈・野口みやび・樋口彩香・松尾咲希 松岡美里・馬渡早紀・森美優・吉田華穂

#### 《 あらすじ 》

あるところに五匹ののねずみの家がありました。冬に向けて食材集めをしているのねずみ達。だけど一匹だけはなんだかちがう…。その名は「フレデリック」。さて、フレデリックは何をしているのでしょうか…。

#### 《学内の自然物を使ったスライド作成》

- ・石
- ・葉
- ・すすき
- ・木の枝
- ・花
- ・木の実



#### 《その他の使用物》

- ・絵の具
- ・スポンジ
- ・おはじき
- ・フェルト
- ・ボタン



#### 《発表内容》

うしがぶらぶらあるいてる。  
うまがばかばかはしってる。  
そんなまきばにそって、ふるいいしがきがあった。



なやにもサイロにもほどちかい、そのいしがきのなか、おしゃべりのねずみのいえ。



けれど、おひゃくしょうさんがひっこしてしまつたので、なやはかたむき、サイロはからっぽ。そのうえ、ふゆはちかい。ちいさなみずみたちは、とうもろこしときのみとこむぎとわらをあつめはじめた。みんな、ひるもよるもはたらいた。ただーフレデリックだけはべつ。



「フレデリック、どうしてきみははたらかないの？」みんなはきいた。

「こうみえたって、はたらいてるよ。」とフレデリック。

「きむくてくらいふゆのひのために、ぼくはおひさまのひかりをあつめてるんだ。」



そしてまた、フレデリックがすわりこんで、まきばをじっとみつめていると、みんなはきいた。

「こんどはなにしてるんだい、フレデリック？」

フレデリックはあっさりこたえた。

「いろをあつめてるのさ。ふゆはいろいろだからね。」



またあるひ、フレデリックは、はんぶんねむってるみたいだった。

「ゆめでもみてるのかい、フレデリック。」

みんなは、すこしはらをたててたずねた。

「ちがうよ、ぼくはことばをあつめてるんだ。ふゆはながいから、はなしのたねもつきてしまうもの。」



ふゆがきて、ゆきがふりはじめた。

五ひきのちいさなみずみたちは、いしのあいだのかくれがにこもった。

雪が降る



はじめのうちは、たべものもたくさんあった。  
のねずみたちは、ばかなきつねや、まぬけなねこの  
はなしをしあつた。  
みんなぬくぬくとたのしかつた。



けれどすこしずつ、きのみやくさのみはへつていっ  
た。わらもなくなつた。とうもろこしもむかしのゆ  
め。いしがきのなかはこごえそう。おしゃべりをす  
るきにもなれない。



そのとき、みんなはおもいだした。  
おひさまのひかりやいろやことばについて  
フレデリックがいったこと。  
「きみがあつめたものは、いったいどうなつたんだ  
い、フレデリック。」  
みんなはずねた。



「めをつむつてごらん。」  
フレデリックはいった。  
「きみたちにおひさまをあげよう。ほらかんじるだ  
ろう、もえるようなきんいろのひかり……」  
四ひきのちいさなのねずみたちは、だんだんあつた  
かくなつてきた。これはまほうかな？



「いろは？フレデリック。」まちきれなくなつてみん  
なはせがんだ。「もういちど、めをつむつて。」  
そしてフレデリックが、あおいあさがおや、きいろ  
いむぎのなかのあかいけしや、のいちごのみごりの  
はつぱのことはなしだすと、みんなは、こころの  
なかに、ぬりえでもしたようにはっきりと…

「じゃあことばは？フレデリック。」  
フレデリックはせきばらいして、ちょっとまつてか  
ら、ぶたいのうえのはいゆうみたいにしゃべりはじ  
めた。…



フレデリックは、あかくなつておじぎをした。  
そして、はずかしそうにいったのだ。  
「そういうわけさ。」

## 《制作の様子》



### ○1年生

とうもろこしはペーパーフラワー、画用紙、新聞紙、段ボールで制作。  
実際にステージ上でとうもろこしを食べるため、二つほどペーパーフラワーを  
固定せず置くだけにする。



木の実やわら、クッキーは段ボールにペンキで色を塗り、細く丸める。  
クッキーは間に綿を挟み綿が出ないようにテープを張る。



○2年生

学内にある石や葉などの自然物でスライドを作る。  
フレデリックの絵本に表現されている色味は、絵の具を混ぜたり様々な色を  
合わせたりしてスポンジを使って表現した。



フレデリックが集めた色は傘にカラフルな手形を張り表現した。  
一人一人の手形を取り、手の形にそってきり、1年生と一緒に傘に張っていくこ  
とで全員で作った作品になった。



○1年生と2年生（合同）

声を担当する学生は集まり、2年生を中心に読み合わせをした。音楽を入れるタイミン  
グも考えながら練習を進めた。数人で同時に話す場面でも、一人一人の声が聞こえるよう  
にずらして話すなどの工夫をした。講堂での練習では専門の先生方からアドバイスを頂き  
ながら声の出し方やスピードを決めていった。





#### ○エンドロール

今までの練習風景や制作の様子をエンドロールにまとめ、発表までの過程が分かるようにした。音楽をつけることでただ流すだけでなく、見やすくした。また、その様子を H クラス全員がステージ上で見るかたちで発表作品に仕上げた。

### 「遊びと表現発表会」を終えて

#### 2 年生 <一村優華>

今回の遊びと表現で学んだことは、発表会を作り上げることも大切だがその過程が大切だということだ。まず大変だったのが何をするかを決めることだった。一人一人の意見がなかなか出ず、進まなかった。しかし、先生方からアイデアを聞いたりするうちにやりたいことが見えてきてある程度のことは決まってきた。そこからは話し合いをかさね、「こうしたら楽しそうだね」とみんなで考えるなかで意見が合わずいざこざもあったが、2 年間一緒にいてこれだけ話し合えたことがとても嬉しかった。自分を表現することが苦手な 6 人だからこそ、フレデリックとのねずみになり舞台に立つことを決め練習をしてきた。恥ずかしさから動きが決まらず悩んだこともあったが、本番ではリハーサルよりもリラックスしてなりきることが出来、とても楽しかった。そして何よりも 1 年生に助けられたことが沢山あった。言葉足らずの 2 年生で何をしたいのか分からなかったと思うが、その中で「何か手伝うことありますか？」と聞いてきてくれたり、舞台道具を作っている時の 1 年生の楽しそうな話し声や笑顔を、見ていると頑張ろうと思え、2 年生の支えでもあった。遊びと表現発表会の練習は大変で正直楽しいとは言えなかったけれど、本番が終わると寂しくて最後には楽しかったと思えたのはそれだけ真剣に取り組んでいたのだと知り、過程は大切なのだと学んだ。

#### <井手佑香>

私たちのクラスは、「フレデリック」の絵本を題材にして「フレデリックからの大切な贈り物」という題名に改め、創作表現を行った。1 年生の時に卒論を体験していたが、自分たちの番になると何をしたいか、何から始めたらいいのかが分からず戸惑ったが、吉柳先生に相談をさせて頂き、絵本とダンスをする創作表現に決まった。発表の出だしにフレデリックの絵本を真似て、自分達でスライドショーを制作した。学校の敷地から岩、葉っぱ、木、花を持ってきた。土や芝生はスポンジに絵の具をつけて押し叩いて表現した。絵本の

ような色合いを出すことが難しく、上から色を重ねて絵本に似せれるように意識した。岩、トウモロコシ、わら、傘などの道具作りは、1年生が授業で忙しい中、手伝ってくれたため、ダンスに集中して取り組めるようになった。ダンスはクッキーのダンスと傘を使った雨のダンスを行った。どういう風に踊るのか決まらず、発表の2日前に全てのダンスや動きが決まった。また、最後にエンドロールを流した。内容は製作をしている姿や、集合写真だった。初めは、上手くいくか分からず、戸惑いながらやってきて、何とか形にすることが出来た。今回の遊びと表現発表会を通して学んだことは、何もかもが、ぎりぎりに決まって、ばたばたしていたので、もう少し早くから真剣に行動する事が大切だと改めて学ぶことが出来た。

### <北原沙彩>

私のクラスは、2年生が6人という少人数のクラスだ。だから、係の人だけがリーダーシップをとれば良いというわけじゃなく、全員で作りに上げていく必要があった。でも、なかなか計画に全員がすぐに取り組めた訳ではなく、最初は団結していなかった。それぞれの進路で悩んだり、クラス内での問題もあり、発表会に向けての気持ちに全員がなっていなかった。先生の「誰か研究室に来てください」という呼び掛けには私は「誰も行かないなら私が行きます」と返事をした。私はあの時何気なく返事をしたけど、先生から「あの時あなたが返事してくれてよかった」と感謝してもらえて嬉しかった。この時から、少しずつ計画を練っていくことができた。最初は、「〇〇したい」と心の中では思っていたけど、それをなかなか口に出すことができず、黙ってしまう6人だった。でも、だんだん発表会に近づくにつれて、「あ、〇〇もいいね」「〇〇もしたいよね」「〇〇したら可愛いと思う」などと自分の意思を表に出せるようになった。沢山の人の前でステージに立ってなにかをやるということは、私たち6人にとってとても勇気がいることだった。この発表会までの練習期間、本番を通して、成長できたと思う。この発表会は、沢山の人の支えがあったから成功したと思う。明るく場を盛り上げてくれたり、小道具を作ってくれた1年生達、たくさんの案を提案してくださった先生方のおかげだと思う。このように、たくさんのことを学ぶことが出来た。保育者になってからも他の職員、ベテランの職員の方と協力しながら、自分の意見、意思を表に出すことを忘れないでいたい。

### <塩塚里奈>

私は、今回の遊びと表現発表会を通して大きく2つのことを学んだ。1つ目は、皆で意見を出し合いながら協力してひとつのことをやり遂げることの大切さだ。最初は2冊絵本選びから始まった。私たちにふさわしいストーリーは何かと悩み、皆で意見を出し合って「フレデリック」という絵本に決定した。他にも役決めでは、それぞれ得意なこと、不得意なこと、やりたいことがあるため中々意見がまとまらず大変だと思うこともよくあった。しかしその事がきっかけでお互いを気遣うようになり一致団結した結果、納得のいく作品が出来上がったと思う。お互いを高め合いながら話を進めることが出来、改めて考えた事を言葉にすることの大切さに気づくことが出来た。2つ目は、自分のやるべき事に自信を持って行動するという事だ。最初は、動きを全く練習しておらず舞台道具をひたすら創っていた。そのため、いざステージに立ってみると緊張感があり、さらに先生に指導されるようになると上手く表現出来ない自分にとっても不安を感じていた。そんな中、本番直前でソワソワしているわたしに1年生が「頑張りましょう」「フレデリック、ファイトです」

と言ってくれたのだ。その一言で緊張が和らぎ、笑顔でステージに立つことが出来た。また、何度も練習をしていた為自分に自信がつき、人前に出ても楽しみながら発表ができるようになっていた。これから、この学んだことを基に保育者として企画、運営する場でも活用していけたらと思う。悩み、きついと思うこともあったがそれ以上の達成感を味わうことも出来たのでとてもいい経験になった。そしてなによりこのHクラスで発表が出来たこと、心から本当に良かったと思う。

### <豆田 咲>

遊びと表現発表を終えて1年生の時とは違った様々な経験をする事が出来た。「フレデリック」の絵本を題材にして半分までスライドを作成すると決まるまでもたくさん時間をかけ6人だったからこそ意見がまとまる事が多くあったり、色んな意見があった時もどの案にするのかをみんなで話し合うことができ自分たちのやりたいことをすることが出来て良かったと思う。そしてスライドを作る際にも学校の敷地内のものを使って絵本の独特な色合いを表現することができ、完成した時にはスライドを作って良かったという思いと、いい作品ができたので舞台上はこれ以上に頑張らないといけないことと自分にできるのか不安が沢山あった。一番最初に舞台上に上がった時には表現をすることが全くできず焦りを感じる事が多かった。踊りをみんなで考えて音楽に合わせて楽しい表現、傘の表現を作ることでき表現する楽しさを改めて感じた。そして他の3人がとうもろこしやわらを取りに行っている間1人で動いたり食べたりする表現をなかなかすることができずどうしたらいいのかわからなくなる時が何度もあった。先生にも聞き、自由に動いてみようと思えば本番に挑んだ。練習の時より上手くいったと思うことはできたが保育者になるためには全く足りないと思った。練習や話し合った時間に比べて本番はすぐ終わり、雪やエンドロールを見た時には感動とこの作品をして良かったことや皆で協力してすることで達成感を味わうことができ喜びあえると改めて思うこともできた。この経験したことを来年から活かしていけるようにしていきたいと思う。

### <諸富千聖>

遊びと表現発表会を終えて、まずはクラスで何をするのかを話し合うところから始まり、なかなか案がでなかったり、意見がまとまらなかったりとスムーズに進まないところもあった。しかし絵本の場面を独自で考え、身近な物を使ってスライドを作ることや、後半には私たち自身がステージに出て劇をするなど、最後は私たちがしたい、私たちHクラスらしい発表が出来たのでよかったと思う。また1年生も進んで制作など手伝ってくれ、ステージ上でも黒子役としてや、ねずみの声をしてくれた。6人しか2年生がいない中、影で沢山サポートしてもらったお陰で良い発表になったと思うし、1年生がいたからこそ成功できたと思った。私は人前に出ることが苦手で、いざステージに上がると動きや表情が小さくなってしまったりということが多かった。人数が6人と少ないからこそ誰かの後ろに隠れるだとか、1人ぐらい大丈夫だと思っても見ている人からしてみると目立ってしまう。遊びと表現発表会まで何かに全力で向き合ったりする事が2年間の学生生活の中であまりなかったのも、そういう状況だからこそ最初は「恥ずかしい」「出来ない」という思いから、こういう経験をする事も学生の時だけだと思っているので最後ぐらい全力でしょう

と思った。終えてみて、長い時間 H クラスのみんなと準備をしてきた分達成感も大きく、2年間の学生生活の中で1番思い出に残る経験になった。

### **1年生 <石原優香>**

遊びと表現発表会を通して、2年生の先輩方や他の1年生と協力して何か一つのものを作って、成功させるという達成感を味わうことができた。今回の遊びと表現発表会は2年生の先輩方が主に内容や劇の構成を考えてくださり、それのお手伝いをするというような形だったが、遊びと表現発表会の本番で無事にクラスの出しものが成功した時はとても嬉しく感じた。何をしたらいいのか、次はどのようにすればいいのかわからないことだらけだったが、先輩方がとても丁寧に優しく教えていただいたおかげで練習の間もとても楽しい時間を過ごすことができた。この遊びと表現発表会を通してクラスみんなとの仲を深めることが1番できたのではないかなとおもう。協力すること、みんなで何か作り上げることをより学ぶことができたとおもう。来年は私たち1年生がそれを、一から考えて作り上げていかなければいけないので先輩方の作り上げていく時の様子などをしっかり覚えておいて、来年に生かしていけたらいいなと思う。

### **<井上奈々>**

私は、昨年遊びと表現発表会を見に来たけど、今年はする立場になって、とても良い経験をすることが出来た。私は1年生なので幕間だけをすると思っていただけ、Hクラスは2年生が6人と少ないため、1年生も関わらせてもらった。2年生はこれが卒論になる大事なものと聞いて、私達ができるだろうかと不安に思っていたけど、2年生の先輩方から、1年生も協力してほしいと言われ、みんなで協力して良いものをつくりあげたいと思った。Hクラスは、フレデリックの絵本を題材にし、絵を自然物で表現し、途中から自分達で物語を表現した。1年生も岩やトウモロコシなどの制作をした。演じる側と声を別にしたので合わせるのが大変だと思った。私は、ねずみの黒子役をし、ねずみの食料が何も無くなったという場面で、クッキーを取りに行く役だった。先生から普通に歩いていくのではダメと言われ、どうしたらいいのか悩んでいたけど、友達や先輩方、先生にアドバイスをもらって、本番は多少のハプニングもありながら、黒子の役目を果たすことができた。自分達ではこうしたいと考えていても、実際にやってみるとなかなか上手くいかないこともたくさんあって、前日まで修正を繰り返して、大変だったと思うけど、主役の人もちろんだけど、裏方でもたくさんのひとが支えてくれて成功することができたと思った。来年は自分達の番なのでいいものを作り上げたいと思う。

### **<井上遥香>**

今回の遊びと表現発表会ではたくさんのお話を学ぶことができた。1つ目は舞台を作る大変さだ。大きい岩から小さい岩まで色々工夫しながら作成していった。どのようにしたら岩の光沢が出るのか大きい岩をどのように立てていくかなど、みんなで話し合いながら作っていくのが本当に大変だった。また、とうもろこしも遠くから見てとうもろこしに見えるのか、ネズミの役なので大きめに作るなどと工夫した。大変な作業だったがその分の達成感はずごくあった。2つ目は先輩方の作業に

なるが、1から絵本を決めて誰がどの役をどうするかと決めているのが凄いと感じた。私たちのクラスではフレデリックの絵本を実写化したものだった。先輩方がネズミ役と読み手になり、1年生でセリフを言ったり黒子になったりした。その中で1番大変だろうなと思ったのは、まず、ネズミ役の先輩方は1年生のセリフに合わせてそのセリフを言っているように見せるのが大変だと思った。自分が言っているかのように舞台上で演技をするのはとても難しいだろうなと思いつた。また、読み手も舞台の様子を伺いながらイントネーションなどに気をつけて読むのが大変そうだった。でも、本番はとてもいい演技と読み手で絵本の中に入っていき感じがした。去年は演技を見る側だったけれど、今年は先輩方をサポートしながらの遊びと表現発表会で、正直練習が終わって欲しくないと感じた。来年はどうなるかわからないが、今回の遊びと表現発表会を通してよりいい作品を作っていきたい。また、先輩方といい作品が作れて本当に楽しくていい思い出になった。Hクラスでほんとによかった。

### <嶋田香凛>

「フレデリックの大切な贈り物」の物語はとても面白く、何度読んでも飽きない程だった。スクリーンの画像は石や葉っぱなど、本物を使っており、ネズミは手作りといった絵本が立体的になった様にしていて発想がすごいなと思った。初めは、何をしたら良いのか分からなかったりしていたが、先輩方や先生、1年生の協力があった事で本番では皆、楽しく成功出来た。先輩方が、音楽や絵本、スクリーン、黒子の行動などを、全て考えて下さったおかげで、私達はスムーズにする事ができた。他のクラスの発表も迫力があり見入ってしまう程だった。特にGクラスは学校にあった木を題材に作られており凄いなと思った。切り株になった木の気持ちを色で表したり、ダンボールだけでなく、ヤシの木をステージ全体を使って表現していて驚いた。Lクラスは音楽からして、海賊の雰囲気か漂っていた。ダンスも迫力があり、体全体を使って激しく動いていてかっこよかった。色とりどりの布を使っていて綺麗だった。Hクラスの幕間は、とても緊張した。音楽で間違っしまい残念だったが、とても楽しくできた。練習より出来たかなと思えた。

### <塚本萌杏>

今回の遊びと表現発表会で学んだことは、企画の難しさや工夫の仕方、発想力の重要性だ。企画の難しさは先輩を見て思った。1年生は決められたことや頼まれたことをやるので企画することはなかったが、先輩方は何も決まっていな所から決めて長い期間向き合ってきたのだと思った。悩まれている姿も作品を作る上で何度も見かけた。今までの人生で企画をすることがあまりなかったのでこれから企画する機会を少しずつ増やして行きたいと思った。次に工夫の仕方と発想力の重要性だ。この2つは実際に経験した。私は藁を作ったが、ダンボールを丸めてガムテープで止めたただけだった。他の1年生は岩が立体的に見えるように新聞紙を丸めて挟み盛り上がっているように見せたり、紙を1度丸めて皺を作りより本格的に見えるようにしていた。また、とうもろこしのコーンの部分はペーパーフラワーで作るなど工夫と発想がとても素晴らしかった。何を元に作っているのかを分かりやすくすると同時に、見た目も可愛らしいほうが子どもも見やすいのかなと思った。私には工夫も発想もあまりないので普段の生活から工夫と発想を意識して養って行きたいと思

った。

### <徳永南奈>

Hクラスの遊びと表現発表会の練習では、まず、フレデリックだが、本番出ることができなかったので、全員のサポートが少しでもできたらと思い、創作をした。作っている時は「どうやって作ろう」「どのようにしたらわかりやすいかな」など友達と相談しあい、各自役割を決め、協力しあって作ることができた。みんな夜遅くまで残り、様々な考えを出し合い、満足のいく作品を作ることができた。また、1年生の幕間ではギリギリまで何をするのか決まらずみんなバラバラだった。歌や振りを考えたり、子供たちに喜んでもらうにはどうすれば良いのかを考えた。ブームワッカーの演奏は、最初はまとまりが全くなかった。ときにはピリピリした空気が流れた。しかし、最年長であるみやびが中心となり、全体をまとめてくれた。私は自分にできることを見つけようと思い、全員がブームワッカーで演奏する姿を動画に収めたり、演奏を聴いている側の意見をみんなに伝えたりした。本番はどのようなものになるのか想像もつかなかったが、本番が終わり友達に「どうだった？」と問いかけると、「楽しかった」や「みんなが笑ってくれた」などとても笑顔で教えてくれた。成功して本当によかった。来年は2年生として今年以上に素晴らしいものを作れたらと思う。Hクラスはみんなまとまりがあってとても素晴らしいクラスだと思う。来年もこのメンバーで素敵なものを作りたい。

### <布谷麻里奈>

物語の最初の部分は学内に落ちている葉っぱなどを使い、絵本の絵のように創作がされていた。とても工夫がされており先輩方の努力が見られた。私はその作品に登場するのねずみの声として参加した。趣味で声劇をしており、演じることが好きな私にとってはとても楽しく良い経験ができたと思う。しかし本番はとても緊張した。喉もカラカラで何度も水を飲むほどだった。もしセリフをかんたらどうしよう、間違ったらどうしよう、そんな不安な気持ちを持っていた。しかし舞台上の先輩方は私以上に緊張しているはずなのに、とても明るく楽しそうな表情をしていた。そんな先輩方を見ていると自然と不安な気持ちは消え、楽しい気持ちになった。失敗することなく長かったような短かったような発表が終わった。席に戻ると友達からは「よかったよ」「すごかった」など温かい声をもらい、やって良かったなと思った。先輩方は何度も私たちに「ありがとう」と言ってくださったが、私が頑張ろうと思えたのは先輩方の頑張りを見ていたからだ。貴重な経験をさせてくださり、ありがとうございました。

### <野口みやび>

Hクラスはフレデリックの絵本を題材とし、スクリーンに写真を出して、途中からは劇へと変わる演出だった。セットは凄く工夫されていたと感じた。岩はただダンボールを貼るだけではなく、クシャクシャにして岩のガタガタを表現したり、ダンボールと紙の間に丸めた紙を入れて立体感を出していた。2年生が作っていたスクリーンも学内に実際に落ちていた落ち葉や岩など自然のものを使って作られていた。ナレーションも言葉ひとつにしても毎回違う声質や色をつけて聞いていて飽きないようにしていた。全体を通してHクラスは2年生が6人と少人数のため比較的、他クラスに比べて1年生が関わるが多か

ったように感じる。2年生の大事な作品に参加させてもらえたことがとても嬉しかった。そして1年生もまた来年何か一つの作品を作り上げる際に今回の経験がいきってくるのではないかとおもう。就職後も他クラスの発表を見たこと、自分たちが手伝ったことが上手く応用できるといいなと感じた。

### <樋口彩香>

初めての遊びと表現発表会でとてもワクワクしていたが、不安も沢山あった。去年高校生だったときに、遊びと表現発表会を見に来たが、劇も身体表現もすごくて、感動したのを覚えている。来年は自分たちも参加するのかなと思うと、不安でいっぱいだった。練習が始まり、小道具作りをしているときに、ひとつのものを作るのも1日では出来なくて、パプニングもたくさんあったけど、みんなでアイディアを出し合い完成した時には達成感を感じることが出来た。小道具もでき、全体を通した練習が始まった時には、自分は"黒子のねずみ"だから、そんなに練習しなくても大丈夫だろうと思っていたが、自分が思っていた以上に難しく、一つ一つの動きにとっても悩んだ。先輩方は、練習すればするほど上手になっていて、1年生が足を引っ張ってしまうと思い1年生なりに練習を頑張った。本番はとても緊張したが、楽しく出来たので良かった。先輩方は6人という少ない人数でしたが、一人二役するくらいしっかりしていて、とても頼もしかった。6人の先輩方は、私の憧れであり、目標になった。遊びと表現発表会を通して、たくさんの思い出ができた。

### <松尾咲希>

遊びと表現発表会ではフレデリックの絵本の劇をし、全体の活動を通して仲間と協力することの大切さや、みんなで1つの作品を作る楽しさを学んだ。本番前は放課後に空いている人が残り、研究室や旧講堂で大道具の製作やセリフの練習などそれぞれの役割に分かれて活動した。私は大道具の製作を行い、お互いに意見を出し合い、相手の意見やアイディアを尊重しあい、大きなトウモロコシを作った。また、Hクラスの1年生はブームワッカーで演奏しながら「友達になるために」を歌い、「はじまるよ」の手遊びもした。ブームワッカーでは最初は音やテンポが合わずに走りがちになったり、演奏に集中して歌えなかったりした。しかしみんなで空き時間を使い練習を繰り返すことで徐々にみんなの演奏とテンポが合い、本番で成功することが出来た。手遊び「はじまるよ」では振り付けにアレンジを加えて、Hクラスの「はじまるよ」をした。どんなアレンジをするか、どのように動きを大きくするかなどさまざまな意見を交えながら振り付けを考え、完成させた。遊びと表現発表会を通して、1、2年生の仲を深めることができたので良かった。来年は次の1年生と協力し合い、Hクラスらしい発表が出来たらいいなと思った。

### <松岡美里>

私は入学前にあった去年の遊びと表現は見に来ていなかったもので、どんな感じなのか全くわからないまま作業を進めたり、練習をしたりした。だけど、毎日練習をする中で先輩方の姿や、ほかのクラスの頑張りを見てもっと頑張らないといけないと思えたし、このクラスでいいひとつの作品が作れるようにしたいと思った。2年生が沢山悩んで、行動する姿をみて私たち1年生にもっていない力を持っているし、尊敬する所も沢山あった。また、2年生の作品にかける思いがとても伝わってきた。また、遊びと表現を通してたくさんの人と関わることができて、自分自身成長することができたなと感じた。1年生は、主にステージに置く岩やトウモロコシを作った。トウモロコシを作る時はどのよ

うに作ったら見る人にトウモロコシだと伝わるのかを考えて制作した。また、実際にステージでの練習や、リハーサルでは戸惑うことが多くて、本番が心配な部分もあったけど、夜遅くまで皆で練習したり、準備したりして毎日全員が真剣に取り組んでいたから、本番は練習の時以上の力が皆出せていたと思う。遊びと表現を通して、自分が伝えたいことを相手にどう伝えたらいいのかを考える機会にもなったし、とても想像力が鍛えられたとおもう。来年は、私たちが2年生なので、しっかりと行動して、いい作品を作り上げていきたい。

### <馬渡早紀>

入学して初めての「遊びと表現発表会」があった。去年は先輩方の姿を見るだけだったけれど、どの作品も面白くて楽しくて最初から最後まで見入ってしまった。今年は実際に黒子のねずみとして先輩方を影から支える事になった。先輩方は、絵本から何にするか選び、背景は何を使うか、振り付けや音楽はどうするか等、1から決めないといけなくてとても大変だったと思う。裁縫をしたり、物を作ったり、読み聞かせの練習をしたり、完璧に仕上げた後改めて二年生の凄さを感じた。また、保育者になると発表会のための裁縫をしないといけなくて、子ども達が怪我するとある程度の処置をしないといけなくて、歌やピアノはつきものだし、保育者とは、広く浅く何でもしないとダメで現場で働いている方は凄く尊敬するなと「遊びと表現発表会」を通して知る事が出来た。また、人前で話す事は苦手な方だけど、少しだけ黒子のねずみとしてステージ上に上がらせてもらって、少しは得意な方向に向かって行っているかなと実感した。そして、どの様な声掛けや表現をしたら子ども達にわかり易く伝える事が出来るか、記憶に残るか、私の勉強となった。

### <森 美優>

今回の遊びと表現発表会では、私はクラスの発表でキャラクターの声を担当した。そこで声だけで表現することの難しさを知った。練習では先生にイントネーションやテンションについて何回も指摘された。言い方など自分なりに考えて表現した部分もあった。何回も指摘はされるが、「さっきより良くなった」と褒められた時はとても嬉しかった。本番では練習の時より声が低くなっていて、ペースが早くなってしまった。失敗したなと思っていたが、周りの人達は「良かったよ」と言ってくれた。少し失敗はしたが全力でやれたので良かった。貴重な経験をさせて貰ったのでこの経験は読み聞かせなど活かせる時に活かしていきたいと思った。大谷幼稚園の発表では、1人の男児が終始ずっと「ママ」と叫んでいた。その男児は歌う時もダンスをする時もずっと「ママ」と叫んでいた。1人の保育士が男児の側にいて男児を見守っていた。男児が客席の方に走り出した時は他の保育士も瞬時に止めようと動いていた。無理に活動に参加させるのではなく子どものやりたいようにさせることが大事だと学んだ。また、どんなことが起きても臨機応変に対応できる力を身につけておかなければならないと思った。遊びと表現発表会ではたくさんの学びがあった。学んだことはこれから先の実習の場で活かしていきたいと思った。

### <吉田華穂>

遊びと表現発表会を初めて経験した。学んだことも多くあった。まず、自分たちが劇をするにあたってどうすればお客様に分かりやすく伝わるかを何回も確認しながら挑戦したり、話し合いを繰り返しながら劇を作っていた。様々な意見を持つ

人がいる中でみんなの意見を取り入れながら作り上げる難しさを感じた。2年生になったらまとめる立場になるので今回学んだことを活かしていこうと思う。そして、色々なクラスの出し物を見た。どのクラスも個性が出ていて面白かった。特に印象に残ったのはIクラスの十二支のはじまりという劇だ。1つ1つ手作りで作っていてとてもこだわっているなどおもった。また、今年は、子年ということもあり、丁度いいお話だった。そんなことも考えてあったのかなと考えるとすごく色々考えられたのだろうと思った。どのクラスもこだわりがすごく分かり、とても感動した。次2年生になった時にどんなことをしようかと考える時間がとても楽しみになった。また、幕間をする機会もあった。試行錯誤を繰り返しながらより良いものを作り上げることが出来た。遊びと表現発表会が成功できたのもクラスみんなの雰囲気もよく仲良いからこそできたのではないかと思う。色々なことを学ぶいい機会となった。



《リハーサルの夜・・満月の光の下で》

《遊びと表現発表会委員》

- 2年生：一村優華、井手佑香、豆田咲  
1年生：石原優香、井上遥香、樋口彩香  
馬渡早紀、吉田華穂

《幕間Hクラス1年生》

